

令和4年度 第2回新潟市北区郷土博物館協議会 会議概要

日 時：令和5年3月22日（木） 午後2時～4時

場 所：新潟市北区役所3階 豊栄地区公民館大講堂

出席委員：8名

内山真野子、貝沼良風、北上あつ子、倉地一則、小林久哉、
島 吾郎、武仲浩美、本井晴信 (五十音順、敬称略)

欠席委員：なし

傍 聴 者：2名

事 務 局：(北区郷土博物館) 川崎裕子 館長
神田直子 主査(学芸員)、
曾部珠世 会計年度任用職員(学芸員)
齋藤加奈 会計年度任用職員(学芸員)

(北区地域総務課) 中川 陽 課長補佐

資 料：当日配布(別添)

会議のあらまし

- ・令和4年度第2回目の協議会を開催した。
- ・島会長の進行により、別添の会議次第に沿って行われた。
- ・議事の項目ごとに、別添の配布資料に基づいて、博物館が説明を行い、それに対して委員から質疑や意見などが出された。

会議概要

1 開会

(司会) 神田

ただいまから令和4年度第2回新潟市北区郷土博物館協議会を開催します。
本日は委員8名全員が出席され、会議は成立しています。
2名の方が傍聴されています。
本会議の概要を、後日、HP等に公表する関係で、写真撮影と録音することを了承願います。

2 あいさつ 島会長

みなさまこんにちは。年度末のお忙しいところ、ご参集ありがとうございます。
「木崎村小作争議100周年事業」での記録集がお手元に配られているかと思えます。博物館は、地域の人々の大きな営みを記録することによって後世にそれを伝えていくという重要な役割を持っています。大変に意義のある事業であると思えました。
今回は令和4年度最後の会議ですので、委員の皆様からは忌憚のない活発なご意見をよろしくお願いいたします。

3 あいさつ 中川課長補佐

本日は、年度末のお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。
委員の皆様におかれましては、日頃から、当博物館の運営につきまして、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。今年度では、木崎村小作争議100周年事業や企画展示など滞りなく実施させて頂きましたが、各委員の皆様からは、多大なご協力をいただいております。改めまして深く感謝申し上げます。
さて、今年度第2回目の協議会では、令和4年度後期の事業報告と、令和5年度の事業計画について説明をさせていただきます。本日、委員の皆様からは、それぞれのお立場から率直に忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。
どうぞよろしくお願いいたします。

4 議事

(司会) 島会長から議事の進行をお願いします。

(島会長) それでは議事に入ります。

まずは会議次第の議事(1) 令和4年度後期の新潟市北区郷土博物館事

業の報告をお願いします。

(1) 令和4年度後期の事業報告

(神田学芸員) 資料に基づき、令和4年度後期の新潟市北区郷土博物館事業の報告を行う。

(島会長) ただいま、事務局から説明をいただきました。ご意見やご質問がありましたらお願いします。

【質疑応答】

(本井委員) ・「昭和のくらし展」を現在やっていますが、この展覧会では、地域の人たちだけでなく、昭和という時代を生きた人たちが関心を持って見に来てきていると思います。生の体験を収集する何よりの機会ですので、彼らから昭和の生活体験を書き残していってもらおう仕掛けを作るとよいと思います。

(齋藤学芸員) ・生の声を収集するという点については、昨年度の食をテーマとした「昭和のくらし展」の時から《思い出掲示板》つまりエピソード掲示板を、展覧会の構成の一つに組み込んでいます。それにより、掲示板そのものが展示の一つとなり、見知らぬ来館者と来館者が思い出やエピソードを共有したり、またそれが膨らんでいくということになったりしているように思います。

もう一つは、今回、昭和30-40年代の洋服を展示していますが、それをご覧になったお客様がご自分の洋服の寄贈を申し出て下さることがありました。この機会に、洋服にまつわるエピソードや、街の仕立屋や洋品店の様子、当時のファッションなどの情報を得ることができました。つまり、資料の展示により、新たな資料の収集につながるということもあったわけです。

(貝沼委員) ・「昭和のくらし展」は拝見してとてもよい展示だと思い、父母を連れて再度拝見しました。実際に展示物がそこにあるからこそ、父母から具体的な話を聞くことができたわけですが、とてもよい体験だったと思います。大量消費世代の若者は、服を「仕立てる」ということ自体、そもそもよくわからないわけで、よりわかりやすくする取り組みがあるととてもよかったですと思いました。

- (齋藤学芸員) ・平成生まれの人がもう30代半ばになり、昭和の時代が遠くなっています。しかも、昭和の時代は60年以上と長いので、世代によって「昭和」の時代認識や体験がまったく違ってきます。どの時代に生まれたかによっても、「昭和」を捉える感覚が違うので、なかなか難しいところです。
- (北上副会長) ・実はわが家からも資料を出品させていただいています。10年前であればもっと資料や道具が残っていたのですが、新潟市歴史博物館に寄贈させていただいたほかは、断捨離により、もう「裁ちばさみ」しかありませんでした。これからますます古いモノがなくなっていくと思います。昭和といっても漠然としているので、このように「昭和の暮らし」の大きな枠のなかで「食」とか「衣」というテーマを設けることで、それを手がかりに人々の記憶を具体的に呼び起こすことができます。それはまた、この展示には何が欠落しているのかを、浮き彫りにすることになります。すでに失われたものについても気づかせてくれますね。
- (島会長) ・「昭和の暮らし展」は、まだまだ続いていくわけでしょうから、これらの意見を参考に、さらなる充実をはかっていただければと思います。
- (倉地委員) ・常設展示で行われている「葛塚手織りの会」の活動についてお伺いしたいと思います。2時間半という活動時間で、具体的にどのような活動をしているのですか？見にくられた人も参加できるのでしょうか？
- (川崎館長) ・昭和の最後に、「手織機と葛塚縞展」を開催しました。その頃から既に幻の葛塚縞と呼ばれていました。展覧会開催のために調査をしたのですが、その頃、まだ手織で織っていた80代の女性たちがいらっしゃいました。「手織りの技術をぜひともその女性たちから習いたい」という有志が会を作ったのがきっかけで、手織りの伝承活動が今日まで続いています。手織りの会の活動場所は、分館「ふるさと村資料館」でしたし、そこで子どもたちの手織り体験教室も行っていましたが、このたびの分館の解体に伴い、本館に移し、ホールの右半分のコーナーを設置して常設展示として位置づけています。ここでの活動は試行錯誤の状態です。まだ軌道に乗っているとはいえませんが、ちょうどよいタイミングで織っている場面を見せるなどというところまではいきませんが、来年度には夏休み体験教室を開催する予定です。
- (武仲委員) ・葛塚縞手織りの会の活動についてですが、その工程、作業そのものをイ

ベントとして活かさないものかと思いました。機にセットするまでの作業が実は大変だということを聞いていますので、その部分がイベントのなかで見られないのは、もったいないと思っています。この作業工程を動画として資料保存していただきたいと思います。

(川崎館長) ・葛塚縞コーナーでは、いわゆる機織り作業の前の作業も行っていますので、来館者が気軽にのぞき込んで見学することができます。動画での保存も大事だと思っています。以前、みなとぴあ（新潟市歴史博物館）から撮影していただいたりして動画を保存していますが、現代の若い世代に対しても、わかりやすい展示や見せ方も工夫していきたいと思っています。

(小林委員) ・葛塚東小学校は、博物館の目の前にありますので、いつも利用させていただいています。今回、曾部学芸員から来校していただき、6年生に向けて、学芸員の仕事や、博物館とはどういうところかといったお話を聞かせていただきました。子どもたちは新鮮に感じたと思います。毎年、3年生が「むかしの道具」という勉強のために利用させていただいています。今年度は体験もできるようになり、天秤棒をかついだり、野良着を着たりして、喜んでおります。ありがとうございます。

(曾部学芸員) ・この事業では、他にもさまざまな職業の方がお話されたようですが、私は学芸員の仕事についてお話をしました。博物館というところは、目に見えないところで、たくさんの資料を保管していて、展示を見せるだけでなく、それを守っているというところだということを伝えました。また、それぞれの地域には、教科書に載っていない、それぞれの歴史があることをお話しました。そういったことに気づき、関心をもって、博物館に足を運んでくれるといいなあと思いました。

(内山委員) ・今までは小学3年生を対象とした「昔の道具」の見学や体験学習についてのことを学校に伝えていましたが、小学6年生のキャリア教育までしていただけるということで、ぜひとも、学校に勧めたいと思います。

(本井委員) ・「木崎村小作争議展」については、100周年という得難いチャンスに恵まれて、まさに当事者たちが生きたこの地域の博物館で企画展や事業を行ったという意義は、大きいと思います。今回は、小作争議に対する誤った見方を改め、客観的にこの時代の動き

の評価をきちんとやっていくというスタートラインに立てたと思います。今回だけで終わらずに、今後につなげて行ってほしいです。

(2) 令和5年度の新潟市北区郷土博物館事業計画について

(川崎館長) ・資料に基づき、令和5年度後期の事業計画について説明を行う。

(島会長) ・ただいま、事務局から説明をいただきました。来年度の事業計画については、さまざま新しい取り組みがありますが、ご意見やご質問がありましたらお願いします。

【質疑応答】

(北上副会長) ・動き出したボランティア活動については、その下地を利用するということが大変なことと思います。うまく動き出せば、市民と一体となった素晴らしいボランティア活動となるかと思いますが、そこに至るまでの準備等が大変な労力です。皆さんが楽しく、笑顔で、自主的に活動できるボランティアとなることを応援しています。

(島会長) ・本井委員の「北区の碑」の講座、農業に根差したテーマということでの体験講座、素晴らしい美術関係の展覧会、こども作品展と盛りだくさんで、限られた人数のなかで多様な活動を行ってござりまして、博物館の皆さまにとっては大変な労力だと思います。ご苦労さまです。

(3) その他について

(川崎館長) ・①分館「横井の丘ふるさと資料館」の解体について説明を行う。
・②木崎村小作争議関連の資料購入について、説明を行う。
・③令和5年度北区の特色ある区づくり事業についての説明を行う。

【質疑応答】

(貝沼委員) ・郷土芸発表を館の外に出て行うということについてです。新型コロナの影響だけでなく、人口減少の傾向のなかで、少子高齢化が進み、郷土芸能の担い手不足が全国的に言われていますが、東日本大震災という大きな災害の半年後に興行を行って、その継続の重要性について、多くの人たちに認識を促したという例があります。何をどのように周知するかということは、とても重要であると思います。個人的には、

駅前など不特定多数の人たちが集まるところでやるのがいいと思っています。つまり「通りすがりの人でも見られる」ということが重要だと思います。多くの人たちに、その素晴らしさが伝わればいいなあと思っています。

(川崎館長) ・どんな状況でも続けるという姿勢を示すということの重要性はよくわかります。興行については、保存団体のみなさんと話し合いながら、どういう方法や場所がよいのか、といったことを模索していきたいと思っています。

(倉地委員) ・木崎村小作争議関連の資料購入は、素晴らしい取り組みであったと思います。展覧会では、借用資料として展示されていましたが、その展示資料がすべてではなく、提供された資料のなかから選択したほんの一部が展示されていたに過ぎないということで、展覧会終了後はどうなるのかと、その行方を心配していました。これらについて、これから博物館で資料整理を行っていかねばならないわけですが、職員だけで行うのは大変です。

幸いこの時代の資料は、近世の古文書と違って、時代も新しく、取り組みやすいのではないかと思います。来年度から今までの解説を主体とした「市民ガイド」から「市民ボランティア」へと転換されるということですので、市民のボランティアの方々に協力をいただきながら、整理していただければありがたいと思います。ぜひ大事にさせていただきたいし、新潟市全体に発信できるように整理して有効活用していただきたいと思います。

(曾部学芸員) ・このたび收藏させていただいた段ボール20箱分の資料のなかで木崎争議に関する資料は、10センチくらいの厚みしかありません。それ以外に、明治の終わりから戦後の農地解放の終わった後までの小作地経営の資料があるということが大きな魅力かと思っています。

(島会長) ・それでは、本日本日予定していた議事につきましては、すべて終了しましたので、事務局に進行をお返しします。

5 閉会

(司会)

島会長、ありがとうございました。

本日、協議会の中でいただきました意見を参考にさせていただき、館

の今後の業務、運営に活かし、進めさせていただきます。
委員の皆様、長時間にわたってご審議をいただきありがとうございました。